

令和 5 年 6 月 17 日現在

機関番号：34310

研究種目：若手研究

研究期間：2019～2022

課題番号：19K13938

研究課題名（和文）戦後障害者福祉政策史に関する横断的研究

研究課題名（英文）A Cross-Sectional Study on the History of Postwar Welfare Policies for Persons with Disabilities

研究代表者

廣野 俊輔（Hirono, Shunsuke）

同志社大学・社会学部・准教授

研究者番号：60626232

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 1,600,000円

研究成果の概要（和文）：本研究では、1960年の知的障害者福祉法の成立史、1970年代の身体障害者によるアクセス権運動史などの個別の歴史を明らかにしながら、そこにある様々な障害者政策に共通する変化の要因を析出しようとした。例えば、精神薄弱者福祉法に典型的に表れているように、日本の障害者政策は排除と包摂の絶え間ない運動であったと言える。また、身体障害者によるアクセス権運動は、経済的自立中心、入所施設中心ではカバーしきれないニーズの表出であることを示した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究の学術的・社会的意義の第1は、障害者福祉政策はともすると社会福祉士の国家試験の対策のように、年号の暗記と考えられがちな点を是正することにある。この傾向は、知識を細切れにしてしまうだけでなく、法の成立そのものを時代の区切りと考えてしまう傾向をもたらす。本研究では、政策を「排除と包摂」、「特殊と普遍」といったキーワードでとらえ返すことで、障害種別や単に立法を時代の変わり目と見る単純な発想から解放される第一歩となることである。

研究成果の概要（英文）：This study attempted to analyze the factors of change common to the various disability policies there, while clarifying individual histories, such as the history of the passage of the Welfare Law for the Mentally Retarded in 1960 and the history of the right of access movement by the physically disabled in the 1970s. For example, as typified by the Welfare Law for the Mentally Retarded, Japanese disability policy has been a constant movement of exclusion and inclusion. In addition, the right of access movement by people with physical disabilities was shown to be an expression of needs that cannot be covered by economic independence-centered or residential facility-centered policies.

研究分野：障害者福祉

キーワード：障害者政策 排除 包摂 普遍 特殊

1. 研究開始当初の背景

研究開始当初の背景としては、次のようなポイントがあった。近年、社会福祉をめぐる諸問題はますます複雑化し、従来の対象者別の福祉制度であって、なおかつ、管轄する省庁が明確になるように区切られた制度のありようでは対応できないという問題提起が数多くなされていた。その一方で、日本においては、まさに対象者別の福祉制度、障害に注目した場合には、身体障害、知的障害、精神障害、発達障害、難病といった具合に、発展してきた経緯がある。初発の問題意識としては、「そもそもなぜこのような対象別の制度にそもそもなったのか」という大きな問いがあった。その問題が指摘される一方で、障害を身体障害、知的障害、精神障害等に分けることに私たちは抵抗をあまり抱かない。それはなぜなのだろうか。歴史的にある障害と別の障害が統合される可能性はあったのか？そういった問題意識からこの研究はスタートした。これらの研究は今日、強度行動障害、医療的ケアなどなどさらなるカテゴリー化が進む障害者福祉領域を検討する上での羅針盤を与えてくれるはずである。

2. 研究の目的

研究の題目は障害者政策史の横断的な検討であったが、まずその第一歩として、「なぜ現在あるような形に障害が分割されて対応されてきたのか」を明らかにすることを目指した。そのことによって統合の可能性が探れるのではないかと考えたからである。そのためにも、障害者政策がなぜ現在そうであるように、身体障害者、知的障害者、精神障害者という対象分類ごとに発展したのかに焦点を当てた。ここには3つの意味がある。そもそもなぜ障害を分類する必要があったのかという問題意識が1つ目である。2つ目に分類の必要性があったとして、現在の分類方法以外の可能性はなかったのかという点である。3つ目の意味は、ある時点で残されてしまったに政策の対象とならなかった障害に関係する当事者や関係者が、その後どう対応したかである。

3. 研究の方法

研究方法は文献資料による研究である。具体的には、国立国会図書館、東京都立中央図書館、大分大学図書館、同志社大学図書館、国立公文書館などで可能な限りの文献・資料を渉猟した。また代表者には障害者運動史の研究の蓄積があることから政策に対する当事者団体の意見にも注意しながら文献資料を幅広く収集した。さらに障害者運動の関係者、当事者から頂いた資料も活用した。資料において注目すべき点は以下の通りである。1つ目に歴史的に先行した身体障害者福祉法における身体障害者の定義がいかに形成されていったのか。何が引き継がれ、何が除外されたのかである。そして、身体障害者福祉法が取りこぼしたどのようなニーズにもとづいて、いかなる運動によって後続の障害者福祉法が形成されていったのかである。さらには、後続の福祉法が包摂し得たニーズは何なのか、除外してしまったニーズは何か。それはまたいかなる経緯で問題化されていくのかというようにこの研究はさらに続いていく。

4. 研究成果

研究成果は、一見、医学や心理学に支えられた障害の区分が、たしかにある部分はそれに支えられつつも、歴史的な経路や蓄積によっても分類されていることを明らかにした点にある。たとえば、知的障害をめぐっては、身体障害者福祉法への包摂が検討されていた。それは経済的な理由、区分の難しさを理由に実現しなかった。また、児童福祉法に包摂するという見解もあった。しかし定義の変更に対する抵抗は大きく、これも実現しなかった。成人の知的障害者については生活保護法の施設を活用する案もあったが、これも実現しなかった。児童と成人が別の法律で管轄されることは、当時の支援者にとっての負担が大きかったからである。このような経緯によって単独法が期待された。このように定義がいったん確定されると、それは参照すべき基準として力をもってどうしても柔軟性を失う。逆から言えば、制度として確立させ公金を活用して支援するためにはいかなる人間が支援の対象であるのかをできる限り明確に定義せねばならない。このような性質からみれば、制度は確実にどこかを支援の対象としてたらしめ、確実に光の当たらない除外された部分を作ってしまう。これらは、別々のメカニズムではなく、1つのメカニズムの別の側面と理解されるべきである。

以上の例に見るように、障害者政策史は排除と包摂のメカニズムで作動しているといつてよ

い。新設された知的障害者福祉法では重症心身障害児が包摂されていない。では、それをどうするのかという新しい問題が巻き起こる。結局、児童福祉法で重症心身障害児の対応がなされることになるが、それは「動く重症児」と呼ばれる人たちをも包摂したのだろうか。このような繰り返しの中で制度はどんどん対象者別になっていく。このメカニズムこそ私たちが政策の限界としてとらえているものの正体である。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計2件（うち査読付論文 1件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 2件）

1. 著者名 廣野俊輔	4. 巻 137
2. 論文標題 精神薄弱者福祉法に対象規定が欠落しているのはなぜか？： 制定過程における対象規定への言及をふまえて	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 評論・社会科学	6. 最初と最後の頁 51 64
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.14988/00028362	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 廣野俊輔	4. 巻 12
2. 論文標題 「東京青い芝の会による自立生活運動の背景 活動の再評価にむけた手がかりとして」	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 『福祉社会科学』	6. 最初と最後の頁 11-28
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕 計1件（うち招待講演 0件/うち国際学会 0件）

1. 発表者名 廣野俊輔
2. 発表標題 だれもが乗れる地下鉄にする運動をいかに再評価すべきか： 今日からみた意義
3. 学会等名 関西社会福祉学会
4. 発表年 2023年

〔図書〕 計4件

1. 著者名 埋橋孝文編著	4. 発行年 2022年
2. 出版社 明石書店	5. 総ページ数 224
3. 書名 福祉政策研究入門 政策評価と指標 第2巻 格差と不利/困難のなかの福祉政策	

1. 著者名 棕野 美智子	4. 発行年 2021年
2. 出版社 ミネルヴァ書房	5. 総ページ数 264
3. 書名 福祉政策とソーシャルワークをつなぐ	

1. 著者名 一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟	4. 発行年 2021年
2. 出版社 中央法規出版	5. 総ページ数 248
3. 書名 障害者福祉	

1. 著者名 廣野俊輔	4. 発行年 2019年
2. 出版社 ミネルヴァ書房	5. 総ページ数 224
3. 書名 入門 障害者政策	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------